

歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for oral Health  
(JAICOH)

20周年記念事業

第20回学術大会プログラム・抄録集

主催 歯科保健医療国際協力協議会

後援 社団法人 日本歯科医師会

## 大会運営委員

### ○ 20周年記念事業実行委員

- 深井穫博（ネパール歯科医療協力会，埼玉県三郷市開業，JAICOH 会長）
  - 黒田耕平（日本モンゴル文化経済交流協会，神戸生協なでしこ歯科，JAICOH 副会長）
  - 夏目長門（日本口唇口蓋裂協会，愛知学院大学歯学部口腔外科第二講座，JAICOH 副会長）
- 鈴木基之（昭和大学歯学部歯周学講座，JAICOH 副会長）
  - 時田信久（南太平洋医療隊，埼玉県坂戸市開業，JAICOH 理事）
  - 原田祥二（北海道プータン協会，北海道小樽市開業，JAICOH 理事）
  - 河野伸二郎（神奈川海外ボランティア歯科医療団 KADVO，横浜市開業，JAICOH 理事）
  - 澤田宗久（南太平洋に歯科医療を育てる会，大阪府大阪市開業，JAICOH 理事）
  - 宮田 隆（歯科医学教育国際支援機構，JAICOH 理事）
  - 森下真行（日本歯科ボランティア機構 JAVDO，広島県開業，JAICOH 理事）
  - 河村康二（南太平洋医療隊，埼玉県川口市開業，JAICOH 理事）
  - 柴田享子（DHネットワーク，JAICOH 理事）
  - 田中健一（中国北京天衛診療所，JAICOH 理事）
- 阿倍 智（神奈川歯科大学，JAICOH 理事）
- 小原眞和（有夢会，東京都品川区開業，JAICOH 理事）
  - 有川量崇（日本大学松戸歯学部衛生学講座，JAICOH 理事）
  - 菊池陽一（宮城県伊具郡開業，JAICOH 理事）
  - 白田千代子（東京都中野区北部保健福祉相談所，JAICOH 理事）
  - 梁瀬智子（ネパール歯科医療協力会，JAICOH 理事）
  - 平田宗善（神奈川歯科大学、南東アジア支援団 KDC-SAS，JAICOH 理事）
  - 村田千年（聖路加国際病院，JAICOH 理事）
  - 越渡詠美子（地球の保健室，JAICOH 理事）
  - 中村修一（九州歯科大学国際交流・協力室，JAICOH 理事）
  - 中久木康一（東京医科歯科大学顎顔面外科学分野、JAICOH 理事）
  - 須田佳菜絵（日本大学松戸歯学部国際保健部）

大会長：深井穫博

20周年記念事業事務局：小原眞和

140-0004 東京都品川区南品川 2-5-7

電話：03-3471-1181 FAX：03-3471-1183 Email：[oharin@aol.com](mailto:oharin@aol.com)

## 歯科保健医療国際協力協議会(JAICOH)20周年記念事業 開催要項

### 1. 主催

歯科保健医療国際協力協議会

### 2. 後援

日本歯科医師会

### 3. 記念事業内容

#### (1) 記念事業1. 学生部会シンポジウム

日程：2009年7月18日(土) 15:00-17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

#### (2) 記念事業2. 記念学術集会・式典・講演・祝賀会

日程：2009年7月19日(日) 10:00-20:00

会場：東京医科歯科大学歯学部特別講堂 4F (学術集会・式典・講演)

東京医科歯科大学 16F オークラカフェ&レストランメディコ (祝賀会)

(東京都文京区湯島 1-5-45、JR/地下鉄丸ノ内線お茶の水駅前)

#### プログラム：

学術集会 10:30-13:00 ポスターセッション、指定演題

14:15-14:45 JAICOH 年次総会

式典 15:00-15:30 記念式典

記念講演 15:30-17:00

「国際保健医療協力における歯科保健・口腔保健の役割」

JAICOH 会長 深井穂博

「国際保健の動向と歯科保健への期待」

自治医科大学名誉教授 石井 明先生

記念祝賀会 17:30-20:00

会費：学術集会 1,000 円 祝賀会 5,000 円 (一般) 3,000 円 (学生)

#### (3) 記念事業3.

20周年記念誌および国際歯科保健医療協力 NGO ダイレクトリー発行

(2010年2月発行予定)

プログラム

2009年7月19日

1030-1300

学術集会（ポスターセッション）

座長：鈴木基之

1. トンガ王国における南太平洋医療隊の活動（河村康二）
2. 南太平洋トンガ王国ババウ諸島における2年間の長期ボランティア活動報告-ババウ諸島小児のう蝕罹患状況と学校保健アプローチ-（藤瀬多佳子）
3. トンガ王国における障害者施設歯科医療ボランティア活動- 現地歯科医療スタッフとの協力内容の変化-（遠藤眞美）
4. 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会
5. 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構
6. 東ティモール医療友の会(Alliance of Friends for Medical-care in East Timor; AFMET)によるプライマリー・ヘルス・ケア(PHC)の普及活動（小林 裕）
7. （特活）歯科医学教育国際支援機構
8. NPO「カムカムクメール」NPO「Kham kham Support for Khmer Health Care」
9. カンボジア王立保育者養成センター学生の口腔衛生意識（沼口麗子）
10. JICA 青年海外協力隊歯科医師隊員派遣の現状（原田祥二）
11. モンゴルとの国際歯科医療協力活動：「日本モンゴル文化経済交流協会」
12. ネパール歯科医療協力会 過去20年間のあゆみ

寄稿文：JAICOH20周年を祝う 村居正雄

15:00-15:30

記念式典

司会：小原眞和

開会の辞

会長式辞

歯科保健医療国際協力協議会会長 深井穫博

来賓祝辞

日本歯科医師会会長 大久保満男（矢嶋統一理事代読）

感謝状贈呈

閉会の辞

15:30-17:00

記念講演

座長：中久木康一

国際保健医療協力における歯科保健・口腔保健の役割（JAICOH 会長 深井穫博）

国際保健の動向と歯科保健への期待（自治医科大学名誉教授 石井 明先生）

## トンガ王国における南太平洋医療隊の活動

○河村康二<sup>1,2)</sup>・河村サユリ<sup>1,2)</sup>・遠藤真美<sup>1,3)</sup>・藤瀬多佳子<sup>1,4)</sup>・小林清吾<sup>1,5)</sup>

1)南太平洋医療隊、2)カワムラ歯科医院 3)日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座  
4)元 JICA シニアボランティア 5) 社会口腔保健学講座

### 【活動の成り立ち】

開業歯科医師、歯科医療スタッフを中心として大学から日本大学松戸歯学部の教員が加わり、学生の国際保健部も参加している。参加資格はボランティア精神を持ち自己負担で相手国民に対しボランティア活動を通して寄与できる者であれば参加資格はある。

### 【活動目的】

私達はボランティア活動を行う時、予防や健康を中心に寄与し歯の大切さを教育する活動を行いたいと考えていた。日本における医療制度が、病気出来高払いの病気の歯科医学の進歩と矛盾する医療に疑問抱いていた。歯科医療従事者が発展途上国でボランティア活動を行い、治療中心から予防、ヘルスケア中心の活動を行い、発展途上国において制度として確立できればと考え南太平洋地域を活動地域として選択し、予防・健康を中心としてボランティア活動を行い相手国に対し寄与できその国が制度を確立する、そして活動が日本にフェードバックされ歯科医療の発展に提言をすることができ、予防、健康中心の歯科医療への道に導く貢献できるのではと考えた。

### 【内容】

南太平洋医療隊は 1998 年より南太平洋のトンガ王国で歯科保健活動を行っている。トンガ王国は人口約 10 万で 14 才以下の子供達が 35% を占めており、大小 170 余りの島々からなる 3 つの諸島を有する国である。経済的には自立できる体制にはなく、多くの国から援助を受けている。地理的条件、人員不足、設備不備、器材不足等の条件により歯科医療状況は悪く、日本では当然保存治療されるはずの歯が抜歯される。近年、パン食の拡大と砂糖を含む食品・飲料を多く摂取する食生活の変化によりむし歯・歯周病が増加しており、それに関連して全身疾患（肥満、糖尿病、心臓疾患等生活習慣病が多い）が悪化するという悪循環を断ち切るため、予防啓発活動を含めた歯科保健の確立が急務となっている。我々は年に数回訪れトンガ健康省バイオラ病院歯科室とマリマリ（笑顔を意味する現地語）プログラムを通じ幼稚園、小学校におけるフッ化物応用と歯科保健指導に重点をおいて活動してきた。2006 年から JICA の草の根技術協力事業「トンガ王国における歯科保健の為のプロジェクト」を 3 カ年実施し、2009 年 3 月に終了した。

### 【成果】

担い手として予防歯科室の開設と予防歯科チームの立ち上げ事業の実施のため 3 つの諸島に施設訪問、フッ化物デリバリーのため車を寄贈した。フッ化物の管理簿、器材を整備

し歯ブラシ等器材を寄贈しリーフレットや媒体を通じて歯科保健指導も行った。事業はトンガ人に受け入れられ自主的に発展し2008年にはトンガ全域で幼稚園34施設約860名、小学校101施設約14,000名で実施している。児童には治療勧告書を手渡し治療への早期介入を行い、予防歯科室では2年生に予防処置シーラント・歯科保健指導が行われている。関係者とワークショップの開催、町でオーラルフェスティバル開催を実施した。事業を実施継続した小学校での歯科健診の結果から、う蝕罹患率の減少と1人あたりの永久歯う蝕経験歯数が激減した。反面、乳歯のう蝕が多く一年生ですでに幼弱永久歯がう蝕に感染しており就学前の幼児からの予防歯科保健活動が不足していることが示唆された。質問調査の結果では、児童は誰でも歯ブラシを持ちフッ素入り歯磨剤を使用して毎日歯を磨く習慣ができており、むし歯を予防にフッ化物の応用が重要だと認識している。児童の間食に関しては近代的な甘味飲料水・甘味食が増えており歯に良くないと認識しているにも係わらず摂取する児童が多いう蝕予防、教育的立場、食生活習慣の改善の観点から指導が必要と考えられる。教師、関係者の意見からマリマリプログラムは児童のう蝕軽減に役立つと考えており活動に積極的に関わりたい教師や保護者が多数いることが伺えた。活動の維持発展には急速な拡大のためマンパワー不足の歯科スタッフに加え教師や保護者の協力が不可欠である。

#### 今後の方向性

今後は幼児を対象として乳歯・幼若永久歯のう蝕を抑制する事、幼児・児童の甘味飲料水、甘味食の摂取に対するう蝕予防、教育的立場、食生活習慣の改善の観点から指導する事、フッ化物の応用をさらに自主的に利用できるようシステムを構築する事、急速な拡大を補完するためマンパワー不足の歯科スタッフに加えマリマリプログラムの関係者から新たな担い手を育成すること、その為マリマリプログラムに関与する関係者が利用できる歯科保健テキスト・マニュアルの作成をしていきたいと考えている。

事務局連絡先：カワムラ歯科医院 河村康二

〒332-0016 埼玉県川口市幸町3-8-14

Tel 048-256-0118 Fax 048-256-0130

E-mail: [kawamura@pb3.so-net.ne.jp](mailto:kawamura@pb3.so-net.ne.jp)

<http://spmt.jp/>

会員数：約30名

会費：年度会費¥10,000円

法人格：無し NGO 団体

団体内容：南太平洋医療隊1998年設立

事業予算年間：約¥8,000,000円

代表 河村康二

副代表 清水潤

プロジェクトマネージャー

河村サユリ

顧問 小林清吾

## 南太平洋トンガ王国ババウ諸島における 2 年間の長期ボランティア活動報告 ～ババウ諸島小児のう蝕罹患状況と学校保健アプローチ～

○藤瀬多佳子<sup>1,2)</sup>、河村康二<sup>2, 3)</sup>・河村サユリ<sup>2, 3)</sup>

1) 元 JICA シニア海外ボランティア、2) NGO 南太平洋医療隊、3) カワムラ歯科医院

### 【活動の成り立ち】

トンガ王国保健省から日本国際協力機構（JICA）へ、トンガ王国ババウ諸島唯一の総合病院への、小児歯科医師のシニア海外ボランティアの派遣要請があった。要請内容は、歯科診療、歯科診療指導、および学校巡回保健指導の 3 点であった。

学生、大学院、勤務時代と通算 22 年以上在籍した九州大学は、1988 年より JICA の国際歯科研修コースを委託され実施している。各国からの研修員と交流を通じ、自ら世界に赴き、歯科医師としての国際協力の可能性に挑戦したいという気持ちが高まっていった。JICA がトンガ王国におけるボランティア小児歯科医師を募集しているのを知り応募。派遣が決定し、2007 年 3 月から 2009 年 3 月までの 2 年間、現地に滞在し活動を行った。

### 【活動目的】

トンガ王国は約 170 の島々、4 群島からなる南太平洋の島国である。全人口 11 万人に対し、歯科医師 7 名、デンタルセラピスト 11 名がいる。慢性的に医療関係者が不足している。首都トンガタブ島から約 275 km 離れたババウ島（人口 1 万 6 千人）には、歯科医師 1 名、デンタルセラピスト 1 名が常勤。南太平洋医療隊は、1998 年よりトンガ保健省と協同して、トンガタブ島およびハーパイ諸島において、小学校巡回歯科保健プログラム（歯磨き指導およびフッ素洗口：通称マリマリプログラム）を実施し、成果をあげてきた。しかし、ババウ諸島はマンパワー不足のため、手付かずの状態になっていた。トンガ保健省は地域による健康格差改善のため、今回初めて、ババウ諸島への小児歯科医師派遣を JICA に要請。それに応え、2 年間現地に滞在し、現地の人と同じ目線に立ち、協同して、現地の人々によって持続可能な口腔保健システムを構築し、ババウ諸島の島民の口腔衛生の向上と健康増進に寄与することを目的とした。

### 【内容】

ババウ島の総合病院で島民の歯科診療に従事し、カウンターパートであるトンガ人歯科医師に、抜歯中心の歯科治療から保存可能な歯は、保存を試みる治療を指導した。

2007 年 5 月、小学 1 年生全員を対象とした WHO の全国一斉フィラリア病調査と協同して、ババウ諸島の小学 1 年生全員（407 名）の歯科検診を担当し、他諸島とあわせて、2502 名分の検診結果を集計・分析した。

その調査結果をもとに、ババウ諸島内の小学校全 32 校（ババウ本島 21 校、約 2500 名、離島 11 校、約 300 名）の約 2800 名の小学生を対象に、マリマリプログラムを計画立案。教育省の協力を得て、2007 年 6 月より、ババウ本島 21 校に関しては毎週、離島 11 校に関しては、毎月のフッ素洗口液の配布と年 2 回の巡回訪問指導を開始した。



2008年3月には、ババウ諸島の小学生1～6年生全員の歯科検診を実施。2504名の検診結果を集計分析し、データベースを作成した。う蝕のない子どもへは表彰状を、要治療永久歯を持つ子どもへは連絡カードを作成、配布した。

歯磨き指導方法を統一するためにポスターを作成し、小学校の各教室に配布した。

2008年10月より、マリマリプログラムを幼稚園11施設（園児約200名）に拡大。

2年間の活動中、教育省関係者、歯科医療スタッフを対象に、ワークショップや講演を開催し、プログラムの経過、検診の結果などをフィードバックし、口腔の健康の重要性を啓蒙するとともに、意見交換、質問調査等を行って、連携強化を図った。

他職種（幼稚園、体育等）のJICAボランティア、南太平洋医療隊と連携活動した。

2008年10月、バイオラ病院小児科医師チームが小学生のリウマチ性心疾患の罹患状況の全国調査を行った際には、協力連携し、医科の分野の人々の理解も深めた。

過去5年間に歯科外来を歯科検診のために訪れたババウ諸島の妊婦約2000名の資料を分析し、将来的なアプローチについて検討を行った。

#### 【成果】

2007年、ババウ諸島の小学1年生のう蝕有病者率は95%、dmftは8、DMFTは1だった。2008年の調査では、う蝕有病者率、dmft、DMFTはそれぞれ、幼稚園児91%、7、0、小学1年生93%、8、1、2年生98%、8、2、3年生99%、7、3、4年生98%、5、3、5年生97%、4、4、6年生96%、3、5であり、先進諸国からの食文化の流入により、10年前より、う蝕が重症化していることがわかった（文献：Goldsmith DA. FDI world, 1999, 5:22-24）。

ババウ諸島の人口約16,000人に対し、小学生以下は約5000人で、3分の1を占める。慢性的医療従事者不足、資金不足、材料不足と問題を抱える開発途上国において、疾病予防対策は最も重要である。生活用水は天水依存、一世帯の子供の数が多く、保護者のケアが期待できない現状で、小児自身に口腔衛生の重要性を体得させ、習慣化させるマリマリプログラムは、極めて効果的であると考えられた。Face-to-Faceコミュニケーションを重んじ、地道に子どもたちへ指導した結果、上級生たちが下級生に指導する姿を見るようになり、子どもたちの変化に刺激された小学校教諭は、プログラムへの協力度と理解度も向上するという、効果の波及がみられた。活動終了時に行った小学校教諭への質問調査の結果、プログラムの継続を希望するものが100%であった。子どもたちは、将来的保健医療の人的資源の宝庫である。健康観のみならず、人材育成という点からも、プログラムは有効であると考えられた。

再評価の基準となるデータベースの作成は、キャパシティー・デベロップ支援の上でも極めて有効で、具体的な目標設定を行うことによって、保健省、教育省関係者のモチベーションを強化し、現地の人による持続可能なシステムの構築と基盤作りにつながった。

連絡先：藤瀬多佳子

〒810-0045 福岡市中央区草香江2-1-32-901

TEL 092-791-8997、Fax 092-791-8997、E-mail: fusse627@gmail.com

活動基盤：（現在）南太平洋医療隊、（トンガ王国活動時）独立行政法人 国際協力機構

## トンガ王国における障害者施設歯科医療ボランティア活動 - 現地歯科医療スタッフとの協力内容の変化 -

○遠藤真美<sup>1,2)</sup>・河村康二<sup>2,3)</sup>・河村サユリ<sup>2,3)</sup>・小林清吾<sup>2,4)</sup>

1) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座 2) 南太平洋医療隊 3) カワムラ歯科医院  
4) 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座

### 【活動目的】

1998 に発足した南太平洋医療隊（隊長：河村康二）はトンガ王国（以下、トンガ）で歯科保健医療ボランティア活動を行っている。活動内容は、ヘルスプロモーションの考えを軸に現地歯科医療スタッフ（現地スタッフ）と協力をして地域に対する食事・栄養改善、学校保健システムの確立および予防歯科保健システムの推進を目的としている。具体的には、幼稚園と小学校でのフッ化物洗口や健康保健教育、住民に対するオーラルヘルスフェスティバル開催などである。

2005 年からは同隊の活動としてトンガの障害児・者施設における活動を開始した。目的はトンガの障害児・者施設利用者の健康支援と利用者が口腔領域に関する保健活動や医療を円滑に受けられるような現地スタッフと施設の連携作りの支援である。今回、障害者施設における2005年から2008年までの本隊の活動内容の報告および現地スタッフとの協力内容について考察する。

### 【活動内容】

対象施設は、トンガ本島の障害児・者施設（通園施設と入所施設の各 1 施設）である。通園施設には、曜日ごとにグループ通園をしている発達障害児・者のクラスと毎日通園の聴覚障害児・者のクラスがある。入所施設では、通園している聴覚障害児・者を含む約 20 人が生活している。

2005 年～2007 年の活動開始初期には本隊の都合の良い時間に施設を訪れ、現地スタッフと施設スタッフに対して障害などの知識普及、施設利用児・者の歯科健診、口腔ケアに関する支援（物品寄付、本人・保護者への歯磨き指導）および食事に関する支援（食内容・食環境指導、機能訓練）を行った。施設滞在の日本人ボランティア（JICA 所属）との連携を積極的にはかったが、通年を通じた支援にはつながらなかった。

2008 年には過去 3 年間と同様の内容に加え、現地スタッフと共に通園施設には午前中から施設終了時間まで訪れ、その後、入所施設へ出向き利用者と日常生活を過ごした。入所施設では利用者がトンガ語教室やトンガのダンス教室を開催してくれ利用者との積極的な交流がはかれた。

### 【成果】

過去 4 年間のトンガにおける障害児・者の施設での本隊の活動は本隊中心型から現地スタッフとの協力型へ移行している。現地スタッフの活動変化として現地スタッフが、①利用者のアセスメント方法、器質的および機能的口腔ケア方法を修得し、利用者、保護者、

施設スタッフに指導，②器具の整備（用意，消毒），③歯ブラシ管理方法の検討，④施設内に展示する口腔保健に関するポスター作製などを積極的に行うようになった。また，活動初期には勤務時間中のみ活動協力を行っていた現地スタッフが研修や計画立案などを自主的に勤務時間外にまで行うようになった。

日常生活を共にすると現地スタッフだけでなく施設利用者，施設スタッフらと本隊の共有時間が増えコミュニケーションが充実し相互理解につながった。入所施設利用者の一部を除いて両施設において利用者は歯ブラシを共同で使用していた。しかし，そのことに利用者，保護者および施設スタッフの抵抗がなく，個人指導を勧めるも個人使用には至らなかった。現地スタッフと相談し歯ブラシに利用者の名前を記載してから寄付した。すると，本人，保護者および施設スタッフが何度も個人使用を推進していたにも関わらず，その後は歯ブラシを個人で使用するようになった。また，2007年までは毎年の最終訪問時に1年分の寄付物品を施設職員に贈呈していたが，その多くが本人に使われていないこともわかった。この問題点に関して，また，名前を記載した歯ブラシを現地スタッフが保管し本隊が帰国後も定期的に施設訪問して歯ブラシを交換するシステムに改善した。これら活動の発展的展開により本隊帰国後も理由ある訪問が実現し，通年を通じた現地スタッフと施設職員の顔の見える活動につながっている。

#### 【考察】

国際保健活動には現地の協力が不可欠であるのは当然である。しかし，一度の訪問で十分な協力体制を確立することや信頼関係を確立することは困難である。本活動のように活動の継続は現地スタッフ，利用者，保護者，施設スタッフらと本隊の共有時間を増やし，コミュニケーションの充実につながると考えられる。十分なコミュニケーションは，活動者と現地スタッフなどとの個人的な価値観や人生観などの理解だけでなく，それぞれの国民性や宗教観，死生観，健康観などの円滑な相互理解となり，信頼関係の確立に作用して活動を積極的に受容する重要な事項となる。本活動においても，充実したコミュニケーションによって現地スタッフが活動を積極的に受け入れ，活動計画立案から熱心に協力し，様々な意見を発言するようになった。コミュニケーションや文化の理解が，本隊の一方向的な活動を協力型の活動へと幅を広げたと考えられた。

#### 発表者の連絡先

日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座

〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1

電話・FAX : 047-360-9443

Email : endoh.mami@nihon-u.ac.jp

## 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

日本口唇口蓋裂協会は平成4年1月に先天的な口の病気の子どもの健やかな成長を願って設立されたボランティア団体である。平成14年6月には特定非営利活動法人としての法人格を得て、平成15年4月にはこれまでの活動が認められ、中部地区唯一の国連経済社会理事会との協議資格（ロスター）を持つ NGO となり、国内外で全国の33大学の医学部・歯学部専門家とともに黄色人種で最も高頻度に出生する先天異常（奇形である）口唇裂、口蓋裂に対しての正しい理解を得るために啓蒙活動を行ったり、医療援助を行っている。

### 【国内活動】

電話による悩み相談（ホットライン）を開設しており、医療に関する相談や精神的な問題に関する悩み（いじめ、結婚、遺伝、育児等）が年間120件程度寄せられている。相談者は全国にわたっており、全国各地の医療機関の専門家や親の会等と協力し、患者本人やその家族への的確な対応を行っている。また、年に4回の会報や、保護者・教師向けの冊子を発行して情報提供を行っている。患者の親の会にも積極的な支援を行っており、総会や懇親会へ参加して、直接患者の声を聞き専門的な質問にも対応している。更に平成平成13年度からは、交流啓発事業として中・高校生を対象に海外医療援助と国際交流プログラムを実施している。

また、環境保全の重要性を早くから認識しており、循環型社会の形成を目指して不要となった金歯やアクセサリ等の貴金属、使用済みの携帯電話を回収するリサイクル活動も積極的に行っている。

### 【海外活動】

アジアの発展途上国の多くは貧困に苦しむ地域が多く、医療機材・医療物品や医薬品の不足のため十分な治療を行う事が困難な状況にある。そのような国々に医療機材・物品等を援助する事により、物資の不足のために適切な医療活動が行われないという状況を改善し、現地の医療レベルの向上に貢献してきた。同時にベトナム社会主義共和国をはじめとしたアジアの国々に診療隊を派遣して現地医師への技術移転を行うほか経済的理由で手術を受けられない子ども達へ無料手術を行っている。将来が閉ざされがちであった子ども達が手術を受けて疾患から解放され、将来への希望を持つことができた。患者の中には、学校に通っていたが、年齢が経つにつれて審美的障害を気にして学校へ行かなくなってしまったが、口唇修正の手術を受けたことにより、社会に適応していける効果があった。また、手術を受けて、就職や結婚をした患者も数多くいる。このように手術を受けた患者やその家族の喜びは計り知れないものと推察される。

一方現地では確立されていない分野や概念（例えばチーム医療、術後のフォローや成長

過程におけるアフターケア、インフォームドコンセントの重要性)を日本で学ぶため、現地医師を愛知学院大学歯学部および同附属病院にて研修を行っている。帰国した医師達が、日本で学んだ成果を自国の医療現場で実践し、他の現地医師へ伝達していく事により、その国の自立した医療体制の確立に貢献している。その成果として、援助国の中には現地医師が自力で手術を行うことができるようになってきている。

#### (1) ベトナム社会主義共和国

平成5年より現日本郵政公社や外務省よりの補助金にて、枯葉剤が散布されたことで知られるベンチェ省、ニンビン省、クアンナム省、ホーチミン市に診療隊を派遣し無料手術、技術移転を行うほか医療機材・医薬品等医療物品を寄贈する。平成7年には外務省の補助金で現地人民委員会の協力のもとリカバリールームを有する手術棟を新築した。平成8年より枯葉剤のこの病気の発生への関連性についての調査を行う。平成20年には口腔先天異常モニタリングセンターを設立した。

#### (2) モンゴル国

平成9年より外務省の補助金で僻地診療を含む口唇口蓋裂治療、無料手術を行う。モンゴル医科大学や母子病院へ技術移転や医療機材の寄贈も行う。平成13年度には母子病院内に口唇口蓋裂センターを設立した。平成20年には口腔先天異常モニタリングセンターを設立した。

#### (3) インドネシア共和国

平成8年より外務省の補助金で札幌医科大学を中心として僻地診療、無料手術、技術移転を行う。翌年にはバンドン国立病院へ医療機材の援助を行い、パジャジャラン大学より医師を招聘し研修を行った。平成18年には口唇口蓋裂センターを設立した。

#### (4) ミャンマー連邦国

平成8年より外務省の補助金で口唇口蓋裂および口腔癌の診療、無料手術、歯科治療を行う。中古のバスや救急車の寄贈も行う。平成12年度には国際建設技術協会の補助金で医療・建設・電力の専門家を派遣し、7ヶ所で医療施設の調査を行った。平成17年にはマンダレー教育病院手術棟を設立した。

#### (5) バングラデシュ人民共和国

平成9年より外務省の補助金でダッカ大学にて無料手術、技術移転、講義を行っている。

#### (6) ラオス人民民主共和国

平成12年度の現地事前調査を経て、翌年より外務省の補助金でビエンチャン市にあるセタティラート病院にて口唇口蓋裂患者の無料手術、技術移転を行う。ラオス国立大学で

はマスターコースの一貫として講義をおこなう。平成17年にはこの協会の活動が認められ愛知学院大学内にラオス人民民主共和国名誉総領事館が開設された。平成21年には健康科学大学内に手術棟を建設、22年には研修棟の建設を予定している。

#### (7) チュニジア共和国

平成11年より外務省の補助金で無料手術、技術移転を行う。翌年には現地口腔外科をはじめ形成外科・耳鼻科等の医師にも技術移転を行う。また、教育講演会を開催して治療技術や医療知識の伝授を行った。

結果的にこの15年間でアジアを中心に約2,800名の口唇口蓋裂患者の無料手術を実施し、患者やその家族に貢献してきた。

現在では更に数カ国より援助の要請があり、当協会の活動が世界各地で認められ、支持されているものと確信している。この他にも20ヶ国に各種協力を行っている。

また、平成9年に京都会議で国際口唇口蓋裂協会が設立され、当協会はその事務局として機能しており、世界のNGO・親の会等のネットワーク構築、情報交換、交流を促進している。開発途上国におけるサファリ・サージェリーを禁止し、質の高い医療援助が行われるよう海外医療援助におけるガイドラインの作成およびその普及を推し進めている。

連絡先： 愛知学院大学歯学部 口唇口蓋裂センター  
〒464-8651  
名古屋市千種区末盛通 2-11  
TEL:052(757)4312 FAX:052(757)4465  
e-mail: [jcpf@naa.att.ne.jp](mailto:jcpf@naa.att.ne.jp)

## 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構

### 【組織の活動の成り立ち、活動目的】

日本医学歯学情報機構は、昭和56年11月在宅高齢者（寝たきり老人等）の歯科往診治療を実施する有志によりその端を発する。当初は往診のための歯牙切削装置の開発などを文部科学省、厚生労働省の科学研究費補助金（科研費）等を受けて行っていたが、その後、誤嚥性肺炎の予防における口腔ケアの重要性に着目して内科や看護などの各分野の連携を行うようになり、これらの経験をもとに愛知県内の医療機関（名古屋大学、名古屋市立大学、愛知医科大学、藤田保健衛生大学、愛知学院大学）が中心に各種事業を実施している。

その中でも10年以上にわたりモンゴル国立かんセンター、国立母子病院、そしてモンゴル国の医療教育の最高学府であるモンゴル健康科学大学（旧モンゴル国立医科大学）へは毎年各大学が専門家を派遣し、モンゴル・愛知医学歯学教育国際組織（国際組織委員長小出忠孝）として活動を行っている。

このような国内外の医療活動を通じて地域の5大学が中心となり、大学や専門分野の枠を超えて法人化を目指すこととなり、平成15年12月1日、愛知県より特定非営利活動法人の認証を受けた。

法人化後は、各種委員会を設置、食介護、人的交流、予防を行っている（<http://www.jmdh.org/>）。

この中でも特に2005年愛知県で開催された国際博覧会、愛知万博（愛・地球博）において愛知県内に留学する医学・歯科医学の留学生の協力を得て愛知万博（愛・地球博）のため来日した外国人急病者のための医療通訳システムを確立し、愛知万博（愛・地球博）の成功の一助となった。

また、医療事故の真の原因究明を目指して外部調査委員会の制度のための組織作りを行う事によりADR（裁判外紛争解決手続き）への道筋をつけるために尽力している。

さらに、高齢化社会にむけた取り組みを行っており、口腔ケアにおいては、口腔ケアの知識、技術の普及、質の向上を目的として認定試験を実施し、寝たきり老人の機能維持、また誤嚥性肺炎の予防において大きな成果をあげている。

### 【活動内容】

#### 1. 医療通訳システムネットワークシステムの開発

三菱財団社会福祉事業の交付を受け、通信システムを利用した医療通訳システムの開発を行い、2005年、愛知県で開催された国際博覧会（愛・地球博）において、医学・歯学の留学生の協力も得て万博のために来日した外国人急病者のための医療通訳システムを確立し、愛地球博の成功の一助となるようシステムを提供した。

#### 2. 啓蒙活動

平成17年2月、「健康・栄養」をテーマとした講演会およびパネルディスカッションを開催した。その他「子供夢基金助成金（旧文部科学研究費）」を受け、平成16年9月には中高生を対象とした「将来の医学を目指す人たちへ」、平成17年3月には「健康づくりと食生活」、「健康の大切さを考える 大学附属病院体験」をテーマとした講演会を実施した。

#### 3. 遺伝カウンセリングの実施

遺伝性疾患の患者様やご家族、あるいは遺伝的問題に不安や悩みをもつ方々に対して、倫理的な配慮のもと、ご本人の自由な意思決定に基づいて生活設計上の選択を行い行動できるように、臨床遺伝専門医が遺伝医学的見地から適切な情報を提供し、さらに臨床心理士が心理的にサポートし診療を行った。

平成18年度は、日本郵政公社年賀寄付金の配分助成事業として、遺伝に関する啓蒙ビ

デオならびにDVDを制作した。

4. モンゴル国における活動

10年以上にわたり毎年、各大学が協力し、モンゴルがんセンター、国立母子病院、モンゴル国の医学教育の最高学府であるモンゴル健康科学大学（旧モンゴル国立医科大学）へ専門家を派遣し、モンゴル・愛知医学歯科医学教育国際組織として活動を行った。

5. 人材バンキングシステム

海外医療援助事業の一つとして、日本医学歯学情報機構では、医師、歯科医師、看護師などの方で海外において、やめる子供たちへのボランティア活動に参加を希望する人材を募集し登録を行っている。

代表者名／理事長 小出 忠孝

事務局長／理事 夏目 長門

〒 470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12 愛知学院大学日進学舎内

TEL/FAX: 0561-73-1111

Email : [office@jmdn.org](mailto:office@jmdn.org)



## 東ティモール医療友の会(Alliance of Friends for Medical-care in East Timor; AFMET)によるプライマリー・ヘルス・ケア(PHC)の普及活動

○小林 裕, 酒井信明

### 【AFMET の成り立ち】

東ティモール医療友の会(AFMET)は 1999 年 5 月に設立され、今年で 10 年目を迎える。独立の是非を問う住民投票をめぐる騒乱直後の 11 月より緊急支援として、ラウテン県フィロロ村において医療活動を開始した。2001 年 2 月にフィロロ村トリスラ地区に AFMET リフェラルセンターが完成し、プライマリー・ヘルスケア (PHC) の普及促進、クリニックでの診療、リフェラル (上位の医療機関への患者紹介および車両による患者搬送) 活動を開始した。さらに、2003 年から 2006 年までは JICA・草の根技術協力事業「コミュニティを基盤としたプライマリ・ヘルスケアの普及促進」として地域を拡大しつつ活動を継続してきた。

### 【活動目的】

対象地域の住民が、自らが継続的に疾病への適切な予防・対応ができ、衛生的で健康な生活を営むことができること。

### 【活動内容および成果】

2007 年 9 月から 2010 年 8 月まで JICA 草の根技術協力事業によるプロジェクト、「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルス・ケア・システムの構築」を継続中であり、活動はつぎの 3 つのコンポーネントから構成されている。

#### 1) . キャパシティー・ビルディング

目的：コミュニティ (小村) から選出されたコミュニティ・ヘルス・ワーカー (CHW) が基本的、実践的な PHC 普及促進のための知識や技術を習得すること。

活動：トレーニング・カリキュラムの作成に必要な基礎調査とその実践、および教材の作成。CHW 候補者を対象としたトレーニング・セミナーの実施し、2007 年 9 月から 2008 年 10 月にかけて、ロスパロス市の南約 40km にあるロレ村で実施したトレーニングセミナーで 25 名の CHW が誕生した。2000 年 4 月から現在までにラウテン県の 11 の村、44 の小村で合計 168 名の CHW を養成してきた。また、これら CHW を対象としたリフレッシュ・セミナーを年に 2 回開催している。

#### 2) . コミュニティー・サポート・システム

目的：PHC 普及促進活動を継続させるための、コミュニティおよび CHW に対するサポートシステムを確立すること。

活動：クリニックの維持・運営、リフェラル・システムの継続、コミュニティの基礎調査、CHW を中心とした村の有志から構成される” Cooperative Group” の組織化と村の開発プランニング。現在 18 のグループが自分たちの村で薬草を使った石鹸を製造・販売している。

### 3). パートナーシップ・ビルディング

目的：PHC の普及促進活動を円滑に実行していくために、現地の保健医療機関（保健省）、地域行政（県保健局）、インターナショナル NGO、ローカル NGO その他関連機関（カウンターパート）とのパートナーシップを確立すること。

活動および成果：保健省によるナショナル・ヘルスプロモーション・プログラム(SISCa) への協力。結核プログラムへの協力、保健省およびインターナショナル NGO 主催による会議・セミナーへの出席など。2008 年度は、県保健局が主催し認定するボランティア・ワーカーに対するトレーニングを AFMET スタッフが担当したことで、ラウテン県での SISCa をスタートさせることができた。

事務局連絡先：東ティモール医療友の会（AFMET）

住所：〒106 - 0032 東京都港区六本木 4-2-39

Tel : 03-5414-5227 Fax : 03-5414-0991 E-mail:afmet@tkk.att.ne.jp

法人格： 特定非営利活動法人 2007年8月30日 東京都認証 2007年9月12日設立登記

会員数： 2009年3月末現在 44（個人・団体）

内訳： 正会員 個人 14 団体 2

賛助会員 個人 25 団体 3

会費： 正会員 個人年 5,000 円 団体年 10,000 円

賛助会員 個人年一口 3,000 円 団体年一口 5,000 円 （いずれも一口以上）

## (特活) 歯科医学教育国際支援機構

### 【団体の成り立ち】

本団体は、理事長の宮田隆が1991年に初めて歯科保健医療国際協力協議会の会員として内戦終了直後にカンボジアに入り、ヘルス・サイエンス大学歯学部で教育貢献活動をしたのが始まりである。その時、内戦でほとんどの医師、歯科医師、大学教員を失った現状をみて、この国の医学教育の復興を手助けすることを決心した。その後も個人の資格で年数回のペースでカンボジアにおける教育貢献活動を続け、2002年、宮田が大学を退職したのを機にNPO法人化し、現在に至るまで、カンボジアで初めてとなる歯周病専門医を22名育てるなど、その活動域はカンボジアにとどまらず、ラオス、東ティモール、中南米、インドネシア、中国などで多くの人材を育ててきた。

### 【活動目的】

歯科医学教育支援のほか、歯科・口腔保健活動、医科と連携した感染症予防、周産期医療などを介した国際医療貢献活動を目的としている。現在、主な活動拠点はカンボジア、ラオス、東ティモールであり、要請に応じて、講師の派遣も行っている。

### 【活動実績】

#### 公的資金

2004年 JICA・市民参加国際貢献 カンボジア

2004-2005年 JICA・草の根技術協力支援型 カンボジア

2004-2005年 外務省・NGO日本 NGO 連携無償支援資金協力 東ティモール

2005-2006年 外務省・日本 NGO 連携無償支援資金協力 カンボジア

2006-2007年 JICA・草の根技術協力支援型 東ティモール

2006-2007年 外務省・日本 NGO 連携無償支援資金協力 ラオス

2006-2007年 東京都市民国際協力助成 ラオス

2007-2008年 東京都市民国際協力助成 ラオス

トヨタ財団 2007-2009年 カンボジア・ラオス

1991 から現在まで ヘルスサイエンス大学歯学部における学生・卒後研修医に対する教育支援

2006.11~2007.11 カンボジア・ラオスの少数民族間のネットワーク形成による健康管理システムの構築（少数民族が抱える、共通問題の解決への取り組み）

2007.4~2008.2 カンボジア・ラオス間の少数民族間のネットワーク形成による健康管理システムの構築（少数民族が抱える、共通問題の解決への取り組み）

2007.2 ラオス国立大学医学部 日本大学歯学部との学部間提携 2007.6.8.10

少数民族視察 HIV/AIDS 病院視察

その他、団体独自の活動として、中南米、インドネシア、中国等でも教育支援を行ってきた。

#### 【活動内容】

##### カンボジア

- ヘルス・サイエンス大学歯学部に対する教育支援（歯周病専門医の育成など）。
- 現地歯科医師の僻地での医療活動支援（モンドルキリ県）。
- ヘルスサイエンス大学歯学部の学生を対象とした、僻地での医療活動研修支援。

##### ラオス

- ヘルス・サイエンス大学への教育支援（シンポジウムの開催）
- 同資器材の供与
- ボーリカムサイ県・パッカディン地区の歯科・口腔保健活動支援
- デンタル・ナースシステムの導入支援

##### 東ティモール

- 歯科医療の復興
- 歯科医師・デンタル・ナース教育支援
- 過疎地域の歯科・口腔保健活動

##### その他の国での活動

メキシコ、グアテマラ、キューバ、インドネシア、フィリピン、中国、バングラディシュ

#### 体制

理事長 宮田 隆

会員 200名

年間予算 16,000千円（2008年度実績）

主な収入 会費、寄付金、金属回収など

総会 年一回

理事会 定例年2回 臨時年2-3回

事務所（海外事務所を含む）

東京、カンボジア、ラオス、メキシコ、東ティモール（閉鎖中）

事務所連絡先

本部事務所 東京都中野区沼袋 1-44-2 （宮田歯科医院内）

TEL/FAX 03-3386-6605

HP [www.mmjp.or.jp/oisde/](http://www.mmjp.or.jp/oisde/)

Mail [oisde@tokyo.email.ne.jp](mailto:oisde@tokyo.email.ne.jp)

## NPO「カムカムクメール」 NPO 「Kham kham Support for Khmer Health Care」

【目的】カンボジアの子ども達のむし歯予防を基盤に、子ども達を取り巻く環境改善を現地の人達と協力して支援するため2005年に設立した非営利、非政治、非宗教団体。

【内容】カンボジアを訪問し、歯の大切さ、むし歯は予防可能な病気であること、口の中が健康になれば他の感染症の予防にもなることを大人と子どもの健康教育・むし歯予防実践を通して伝えていきたいです。

2006年から「カンボジアで噛める歯を育てよう」プロジェクトを開始しました。

2009年5月まで7回カンボジアを訪問し、日本のNGO・JICA事務所の方々のご協力を得て、歯科保健健康教育、歯磨き指導、歯科検診などを実施しました。

参加者は歯科医、歯科衛生士です。

現在の活動場所：小学校、孤児施設、移転地集落、保育者養成センターなど。

### 【成果】

1) 保育所で2006年から4回トレーナー研修を実施後、歯磨き環境（各自の歯ブラシを常備、給食後の歯磨き等）が整備され、保育者が保護者と子どもに歯磨き指導を実施。

現在カンボジア人歯科医と学生が年に2回検診を実施。

歯ブラシを売っていない村で歯磨き指導を実施、継続中。

2) 2008年、在カンボジア大使館の後援でカンボジア日本友好年事業に参加し、プノンペンとシェムリアップの2都市で、孤児達対象に『オカリナコンサート&パペットショー「ねずみの歯ブラシやさん」』を開催。オカリナ演奏指導と歯磨き指導も行い好評でした。

3) 2008年からプノンペン市の保育者養成センターでむし歯予防ワークショップを開催中。併設の幼稚園で、先生がカムカムクメール作成ポスターを使用して健康教育を実施。

### 【国内活動】

1) 年に1回活動報告会、チャリティーコンサートを開催

2) 専門学校国際ボランティア科の学生さん達が途上国で歯磨き指導ができるように研修を実施。

事務局：176-0004 練馬区小竹町 1-36-5 Tel 03-3959-5387 Fax  
03-5995-0804

代表：沼口 麗子

会費：3,000円

会員数：約50名

団体：任意団体

連絡先：[npo@kham2.name](mailto:npo@kham2.name)

HPアドレス：<http://kamigataya.com/kham.htm>



## カンボジア王立保育者養成センター学生の口腔衛生意識

沼口麗子<sup>1)</sup>、藤山美里<sup>1)</sup>

1) NPO カムカムクメール、

### 【背景】

NPO カムカムクメールは2006年から3年間カンボジアの2カ所の保育所で保育者にむし歯予防トレーナー研修を4回実施した。研修後保育所では保育者同士で勉強会を、保護者にむし歯予防ワークショップを、子ども達に歯磨き指導を実施している。保育者は子どもと保護者に尊敬され、教育熱心であり、子どものむし歯の多さを認識していることを知った。この経験より私たちは、2008年からカンボジア王立保育者養成センターで学生を対象に、むし歯予防ワークショップを始めた。2009年1月に2年生94名(19-25歳)に、歯磨きに関する題で討論してもらい興味ある学生達の知見を得たので報告する。

### 【目的】

学生たちの歯磨きの目的を探り、今後の健康教育の内容を充実させる。

### 【方法】

94名を9グループに分け、5グループは「歯を磨くとどんないいことがあるか？」  
4グループは「歯を磨かないとどうなるか？」を討論し記録してもらった。  
その後グループのリーダー9人にそれぞれ討論内容を発表してもらった。

### 【結果】

二つの意見で一番多いのは、むし歯に関する事。そして二番目が、爽快感、口臭に関する事だった。

#### 1) 「歯を磨くとどんないいことがあるか？」

多い順に 1、むし歯予防・細菌予防・健康になる 2、気分がよくなる 3、歯が白く丈夫になる 4、歯石予防 5、他人とつきあいやすい・親しくなれる 6、綺麗な歯で魅力的になれる  
その他 口がよい匂いになる・近くで話しても大丈夫・よく食べられる・お金の節約ができる

#### 2) 「歯を磨かないとどうなるか？」

多い順に 1、むし歯になる 2、口臭 3、自信がなくなる・気分がよくない 4、痛くなる  
5、歯石がつく・歯周病になる 6、歯が着色・汚れる その他 恋愛したくとも親しくなれない・会議等の人前で話すときに臭うから意見が言えない・周りの人から好かれない・付き合いにくい・歯の根元がしみる・若い時に歯が折れる

#### 考察・まとめ

歯磨きがむし歯予防、歯周病予防、全身の健康維持に有効なことを認識していた。  
口を清潔に保ち、口臭をなくす事が対人関係を円滑にする方法の一つとする意見が多かった。口腔衛生意識は大変高いと考えられ、今後の健康教育に取り入れていきたい。

## JICA 青年海外協力隊歯科医師隊員派遣の現状

原田祥二、板垣晶博、三重野雅、中田泰央、高橋 強  
青年海外協力隊歯科医師隊員 OB 会設立準備委員会

### 【初めに】

青年海外協力隊事業は、「開発途上地域の住民を対象として当該開発途上地域の経済及び社会の発展又は復興に協力することを目的とする国民等の協力活動を促進し、及び助長する」というものだ。協力隊員の活動の基本姿勢は、「現地の人々と共に」という言葉に集約されている。つまり、派遣された国の人々と共に生活し、働き、彼らの言葉を話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進させる形で協力活動を展開していく。青年海外協力隊は、技術や知識を活かして開発途上国の国づくり、人づくりに身を持って協力するものである。

### 【派遣実績】

青年海外協力隊（JOCV：Japan Overseas Cooperation Volunteers）は、昭和 40 年（1965）4 月に我が国政府の事業として発足した。わずか 7 名のスタッフによって開始された事業であったが、以後 44 年間で世界 6 地域（アジア、アフリカ、中近東、中南米、大洋州、東欧）87 カ国へ 31,703 名の隊員（2009 年 5 月現在）を派遣している独立行政法人国際協力機構（JICA）の重要な事業のひとつとなった。

### 【歯科医師隊員】

昭和 51 年 8 月（1976）に最初の歯科医師隊員がマレーシアに派遣されて以後、昭和に 19 名、平成に 16 名、累積 35 名（うち女性 7 名）が派遣されている。地域別ではアジア（マレーシア、モルディヴ、ブータン）7 名、アフリカ（マラウイ、タンザニア）15 名、大洋州（サモア、ソロモン諸島、ミクロネシア）14 名である。

### 【隊員応募】

隊員募集は春募集と秋募集の年 2 回行われる。原則として 2 年間の赴任期間とし、単身赴任とする。応募・選考は、応募書類の提出、一次選考（書類選考）、二次選考（面接、語学試験、健康診断診査）、派遣前訓練（65 日間）、派遣、の過程を経る。

### 参考資料

JICA 青年海外協力隊 HP <http://www.jica.go.jp/activities/jocv/>

「モンゴルとの国際歯科医療協力活動」  
「日本モンゴル文化経済交流協会」について

【活動の成り立ち】

日本モンゴル文化経済交流協会は、日本とモンゴルの市民レベルでの相互理解と友好の“草の根”交流を通じて、「高度経済成長の代償に、多くのものを失った日本の轍を踏まないで発展して欲しい」という願いを込め、1991年4月に発足しました。歯科衛生士でもある佐藤紀子会長（現在大阪モンゴル国名誉領事）は、1990年の夏にモンゴルで行われた世界環境会議に参加した際、保健衛生面での遅れや、都市生活者のう蝕の多さ、医療品を含む物資の不足を目の当たりにして、「今こそ予防が必要な時」という思いを強く抱かれたそうです。

そして1991年の夏に、モンゴル航空初の直行便で175名の代表団がモンゴルを訪れ、様々な分野の交流が行われました。その際に、佐藤氏の呼びかけに答えた日本側歯科関係者14名が、歯科検診と予防指導を行ったことが両国の歯科医療交流のはじまりでした。当時厚生次官であったダシツェベク氏の「モンゴルの歯科医療と公衆衛生の向上のために協力してほしい」という要請を受けたこともあって、1回限りの活動でおわるのではなく、現在に至る19年間という長期継続交流がスタートしました。

【活動の目的】

当初から、「日本人がやる活動」ではなく、「モンゴル人の健康はモンゴル人自身の手で」をコンセプトに、モンゴル人歯科関係者による自立の活動を目指しました。

「モンゴルにおける歯科医療と公衆衛生の向上」のために、当初はモンゴル厚生省と医科大学、国立歯科センターを交流相手としていましたが、さらに1994年には「モンゴルの歯科医療と公衆衛生の先駆的基地」として共同歯科診療所「エネレル」を開設しました。

【現在の活動状況】

エネレル歯科診療所をベースにした年3回の現地での交流活動、来日研修生の受け入れ、インターネットを利用して様々な相談や情報の提供、歯科器材の支援等を行っています。毎年7月の現地活動は、2000年から始めた「モンゴル人の健康づくり活動」が中心で、生活習慣病対策としてエネレルの来院患者や郡部の遊牧民を対象として健康チェック（血圧、体脂肪率、尿チェック、尿塩分チェック）と保健指導を行っています。また、障害者施設や孤児院での歯科治療・保健予防活動、エネレル職員へのセミナー・実習等も恒例活動です。9月の現地活動では、両国歯科学学生交流、エネレルでの診療相談・セミナー・実習、遊牧民対象の訪問歯科治療・健康チェック・保健予防活動、障害者施設や孤児院での歯科治療・保健予防活動を。2月の現地活動では、エネレルでの診療相談・セミナー・実習、障害者施設や孤児院での歯科治療・保健予防活動を行っています。また、技術研修や後継者対策としてモンゴルからの来日留学生も受け入れ中です。



今年度の活動予定は、7月14日～21日に「モンゴル人の健康づくり活動」、9月5日～12日に「モンゴル歯科探検隊」（エネレル歯科診療所の15周年記念式典も予定）、来年2月に「冬の歯科セミナー・実習」、日本の歯科技工士を短期派遣し研修予定、等です。

会員数：歯科交流グループは、約200人

会費：歯科グループは無料

法人格：NGO組織

代表：会長 佐藤紀子 歯科交流活動担当 黒田耕平

事務局連絡先：

- ・ 佐藤紀子 日本モンゴル文化経済交流協会  
〒541-0059 大阪市中央区博労町 1-4-10-303  
TEL.06-6263-0377
  - ・ 黒田耕平 生協なでしこ歯科 〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-25  
TEL.078-978-6480
- E-mail:hpqdm355@yahoo.co.jp

## ネパール歯科医療協力会 過去20年間のあゆみ

ネパールにおける国際歯科保健医療協力は1989年に開始し今年で21年を迎える。プロジェクトは歯科診療と歯科学術調査から始め、多くの変遷を経て自立型歯科保健開発に発展した。

活動はネパール内の19箇所のフィールドで実施したが、拠点となるフィールドはテチョー村を含むラリトプール郡の八つの村である。

これまでに実施したプロジェクトは、1. 歯科診療、2. 学校歯科保健、3. フッ素洗口、4. 12歳児検診充填、5. 成人歯科保健、6. 口腔保健専門家養成、7. 歯の健康大会、8. 母子保健、9. 巡回歯科保健、10. 栄養指導、砂糖の摂取指導、11. 調査（歯科疾患罹患調査、生活実態調査、保健行動調査、咀嚼能力調査、農耕調査、生活用水分析調査、村人による評価調査）、12. トイレプロジェクト、13. 出版活動（口腔保健テキストブック、母子手帳）、14. 歯の健康大会、15. ヘルスプロモーション委員会の設立、16. 地域歯科保健開発、17. 日本でのネパール人研修事業などである。これらのプロジェクトは全部が成功したわけではなく、成人歯科保健と巡回歯科保健とシュガーコントロールは休止、トイレプロジェクトは失敗であった。残りのプロジェクトは現在進行中である。

活動開始から今日まで事業は4つのステージを経由した。第1は歯科診療と調査ステージ、第2はヘルスケア充実ステージ、第3は口腔保健専門家養成ステージ、第4は地域歯科保健開発ステージである。

これらのプロジェクトは大きく3つの変容を経て今日の地域歯科保健開発ステージに以降しつつある。まず活動内容はメディカルケアからヘルスケアに変容し、口腔保健専門家の要請を実施した結果、活動の主体が日本人からネパール人に変容し、活動の対象が個人から学校やマザーボランティアグループなど集団を経て地域に変容した。

その結果14,539人に歯科診療を84,861人にヘルスケアを実施した。合計99,400人を数える。事業に参画した日本人隊員は延べ636人である。

隊員の職業は歯科医師46.9%、歯科衛生士18.8%、学生12.8%、研究者11.8%、看護師・保健師3.4%、医師0.3%、その他5.8%である。歯科医師の出身や所属大学は23歯学部で歯科学際的参画を得たと言える。21年間においてネパールでの事業はメディカルケアからヘルスケアを経て地域歯科保健開発に進展した。

団体名:ネパール歯科医療協力会 (ADCN)

団体名英語表記:Association of Dental Cooperation of Nepal

住所 〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1 九州歯科大学国際交流・協力室

TEL&FAX 093-583-6132

法人格:NGO

会長:安部一紀

理事長:中村修一

会員数:約 340 名

団体の活動目的:ネパールにおける住民の口腔保健活動の自立援助。歯科診療協力。現地口腔保健専門家の養成プロジェクト。プライマリーヘルスケア（母子保健、トイレプロジェクト、栄養プロジェクト）。ヘルスプロモーションなど。

過去の主な事業:

1989 年ネパール歯科医療協力 1 次隊派遣

2009 年ネパール歯科医療協力 22 次隊派遣

参加への手引き:会費 5000 円

会員はネパール歯科保健医療ミッションへの参加ができる。会務などのボランティア参加自由。研修会（九州・東京で年 2 回開催し参加はどなたでも自由）。

刊行物:「ネパール歯科医療協力会会報」「隊員ニュースレター」

講師派遣について:可能

お申し込み、お問い合わせ先

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1 九州歯科大学国際交流・協力室

TEL&FAX 093-583-6132

収益金はすべて、ネパール歯科医療協力会の活動に活用させていただきます

## 国際保健の動向と歯科保健への期待

石井 明 (自治医科大学・名誉教授)

## 【国際保健の動向】

国際保健 International Health として進展してきた仕事・分野は世界的に動きが観られます。かつて熱帯医学として出発した分野は時代の進行とともに変化が起きている様です。世界が交通・通信革命の中にあって、国境の概念が次第に薄くなってきました。地球は狭くなり世界の裏側、地球の果てからでも日本に来るのに2日とかかりません。

そのため主として国と国の関係として行われて来た国際保健は、地球保健 (Global Health) へと概念の進展が始まろうとしています。しかし現実には国を単位として国際保健の仕事は動いていますし、国際協力は各国の競争で有ることに変わりは有りません。

そこで日本がどのような国際保健の仕事をするか？どのような国際協力を実行するのか？が問われている事にも変わりは有りません。

世界の保健医療で何が問題なのか？日本は何が出来るのか？そこで重要な事は優先度設定であると思います。Priority setting がなされる事が日本の国際協力には大事です。

最近、貧困の解消が取り上げられています。貧困と疾病の悪循環 (vicious cycle) は良く知られているからです。貧困の解消には教育と保健医療の重要性が指摘されています。その意味からも国際協力に保健医療の重要性を認識すべきであります。

近年の世界の保健医療ではサミットにおける日本の提案もあり、Global Fund が役割を果たしつつ有ります。Millennium Development Goals (MDGs) が目標として設定されて国際保健医療に示唆を与えています。母子保健、感染症などが取り上げられて活動が開始されています。ビルゲイツ財団などの大きな資金が投入され始めて来ました。日本の役割はどの辺りに有るのでしょうか？

日本は軍国主義の暴挙の下に第二次世界大戦で国土は破壊され廃墟と化しました。その後の日本の復興は世界歴史に特記される成果を挙げて、現在、保健医療の指標で世界のトップに立っています。この経験が日本の世界への貢献に示唆を与えています。

日本の母子保健、感染症対策の経験を世界に輸出するチャンスです。歯科保健における日本の経験も同じ事が言えるのではないのでしょうか？

## 【歯科医療への期待】

優先度設定が重要である事に間違いはありませんが、先ずは国際機関、各国が考えねばならない事があります。死亡率、罹患率、流行・問題の広がり、対策に方法が有るか否か？などが指標になりますが、最近では DALYs の導入もあります。

DALYs の導入により、浮かび上がってきている疾病に NTDs (Neglected Tropical Diseases) があります。これは以前から「ないがしろにされてきた疾病」として WHO が

特別プログラムを組んで取り組んでいました。DALYsの見方からすると従来の優先度には上りにくかったのですが、慢性的に健康影響があり、重要性が見直されています。

歯科医療にも、この観点が導入されるのではないかとと思います。何処の途上国でも歯科医療には苦心しています。専門的な医療なので歯科大学は少なく歯科医は少なく、そのため人々は歯科医療を求めています。この状況に必要と期待が掛かっています。

歯科医療協力に必ずしも ODA の出番を待たねばならない事はなく、NGO 的な活動も可能性が高いのではないのでしょうか？

石井 明 先生略歴

現職： 自治医科大学・名誉教授

学歴： 1964年3月 東京大学医学部卒業

1965年3月 東京大学医学部付属病院医師実地修練終了

1969年3月 東京大学大学院第3基礎医学課程終了（医学博士）

1970年8月 ロンドン大学医学部大学院修士課程終了（M.Sc.）

資格： 1965年4月 医師免許（第186826号）

職歴： 1969年4月 文部教官東京大学助手（伝染病研究所）

1974年6月 東京医科歯科大学助教授（医学部・医動物学教室）

1977年4月 東京大学助教授（医科学研究所・寄生虫研究部）

1978年11月 宮崎医科大学教授（寄生虫学教室）

1984年4月 岡山大学教授（医学部・寄生虫学教室）

1990年10月 国立予防衛生研究所部長（寄生動物部）

1995年5月 自治医科大学教授（医学部・医動物学教室）

2003年3月退職

2001年9月 中国医科大学名誉教授

2003年4月 自治医科大学名誉教授

2005年4月 実践女子大学教授（生活科学部）2008年3月退職

現在に至る

学会： 日本寄生虫学会（評議員、元理事、元大会長）： 日本臨床寄生虫学会（評議員）：

日本衛生動物学会（元幹事、元学会長）：

日本アレルギー学会（功労会員、元評議員）：

日本熱帯医学会（評議員、元理事、元大会長）：

日本国際保健医療学会（元理事長、元理事、代議員）：

日本渡航医学会（顧問）： 日本感染症学会（評議員）：

日本公衆衛生学会： 米国熱帯医学会： 連合王国熱帯医学会：（会員）

賞罰： 1986年6月 小泉賞（日本寄生虫学会）

1992年4月 日本衛生動物学会賞

2005年4月 桂田賞（日本寄生虫予防会）

## 国際保健医療協力における歯科保健・口腔保健の役割

深井 穂博

(歯科保健医療国際協力協議会会長)

同じ時代に生きていても、住んでいる国や地域によって健康状態は異なる。この貧困に基因した健康格差の問題が国際保健の根本的な課題である。そしてこの貧困と疾病の悪循環から抜け出すための支援が、国際保健医療協力であり、自分が、自分たちが、そのことに対して何ができると考えることがNGOの活動の出発点である。

口腔保健は、咀嚼、栄養摂取とコミュニケーションなど生命の維持にとどまらず、その社会性や生涯を通じたQOLに直接関与する誰にでも身近な健康課題である。しかも、口腔衛生状態の低下が誤嚥性肺炎の明らかなるリスクの一つであることをはじめとして、機能歯の喪失が栄養摂取状態あるいは生命予後にまで関連するという疫学的根拠が示されるようになってきた。これらの研究成果は、先進工業国を中心として報告されてきているが、この口腔保健と全身の健康との関連は、開発途上国でこそむしろ強調されるべき問題である。なぜなら、口腔疾患は、日常のケアの問題として、予防可能な疾患であり、健康教育と地域保健活動の強化によって比較的安価にその成果が期待できるからである。しかしながら、う蝕（むし歯）と歯周病に代表される口腔疾患は、生涯を通して発病することが多く、疾患によってもたらされる苦痛や煩わしさに対して一種のあきらめの感情に陥りやすい。これは、先進工業国においても開発途上国においても共通してみられることである。

一方、口腔疾患を、国の経済状態と健康という観点からみると、低栄養に起因した歯の形成不全、口腔疾患の歯周組織への感染の拡大から引き起こされる全身症状、あるいはその地域の悪習慣に起因する口腔癌の問題などが一部の開発途上国での歯科保健課題となっている。その一方で、貧困から脱出するための経済開発が、逆にそれまでの伝統的な食習慣を変化させ、口腔疾患を急激に増加するという傾向がある。先進工業国では、それに対応するための保健施策が実施され、しかも医療サービスの量が確保されているために、疾患量は比較的低いレベルにコントロールされているのに対して、開発途上国では、保健政策が不十分なために、先進工業国との格差が増大するという現象が生じている。これが、口腔保健における健康格差の一面である。

2004年に、歯科保健医療国際協力協議会が行った国内26団体を対象にした調査結果によると、わが国の国際歯科保健医療協力NGOは、1990年代に設立された団体が多く、その活動の対象国はカンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピン、ラオス、ネパールなどの南西アジアを中心とした諸国である。活動の内容は、歯科治療・医薬保健器材の供与、フッ化物洗口・健康教育を中心とした学校保健の育成、オーラルヘルスワーカーの養成、大学教育歯科医師教育支援など医療から保健、さらに人材育成まで各団体と対象国の特性に

合わせた活動となっている。特に、口腔保健の特性を活かした健康教育を中心とする地域の保健活動における人材育成の分野での貢献は大きい。

本講演では、わが国のNGOを中心とした国際歯科保健医療協力活動の実態と、演者らが1989年から行っているネパール歯科医療協力会の活動の推移を紹介し、口腔保健の分野における国際協力の意義について考える。

深井穂博略歴：

1983年 九州歯科大学歯学部卒業

1985年 深井歯科医院 院長

1997年 博士（歯学）（東京歯科大学）

2000年 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）会長

2001年 深井保健科学研究所 所長

2001年 ヘルスサイエンス・ヘルスケア 編集長

2006年 日本歯科医師会地域保健委員会 委員長

## JAICOH 20周年を祝う

村居 正雄（歯科保健医療国際協力協議会前会長）

もう20年経つのだなと感慨に浸っております。

1990年6月の設立総会から10年間、代表を務めさせていただきました。発足の経緯については、日本歯科評論 No.577 P.20-21,(1990.11) に詳しく記されておりますのでお読み下さい。そして、深井先生にバトンタッチするまでの2000年6月までの10年間の主たる活動を別紙にまとめましたので、参考にしてください。

当時は、国際保健医療協力とは何かを歯科界に周知させること、熱帯医学などで長い歴史と実績のある一般医科の先輩達に歯科の分野も忘れないでとアピールすること、厚生省の国際課や外務省経済協力局JICA、国際医療センター派遣協力課などに歯科分野の有能な人材を紹介する、あるいは歯科関係のODA案件を提案することなどが大きなテーマでした。

結果として、半田祐二郎先生が岐阜大学医学部助教授からJICA国際協力専門員に、池田憲昭先生が愛知学院大学歯学部助教授から国際医療センター派遣協力課技官に転進されて、それぞれ医師・歯科医師の枠を超えた国際協力専門家のリーダーとして大活躍をしています。

スリランカのペラデニア大学病院整備ならびに歯学教育整備プロジェクトは、半田・池田の二人の先生が関わったことによって相手国からも評価される素晴らしいプロジェクトになりました。

歯科保健医療国際協力の基礎造りの10年、多くの歯科関係NGOを束ねて、学会としての機能を高め、歯科学生など若い世代に国際協力の魅力を紹介してきた深井会長の10年だったと思います。

次の10年は、多くの人材が国際の分野で活躍してほしいと願っています。現在、歯科医療は閉塞感に覆われています。歯科大学卒業生が狭い日本で臨床医を目指すのはナンセンスです。国の社会保障関係予算はますます厳しくなります。地球上の60億の人々の健康問題を考え、行動する人材に育ててほしいと思います。口腔の問題は、人々の生活に起因します。住んでいる国の政治、経済、文化、食習慣など全てが関わっています。昨年、北海道医療大学歯学部国際保健学の教授として半田先生が就任、東北大学歯学部にも国際保健の講座ができました。社会歯科学講座のある大学も東京歯科大学、日本大学、神奈川歯科大学、松本歯科大学など増えてきました。

JAICOHのますますの発展を祈念しております。



## JAICOH活動の記録（1990－2000年）

1990. 7.22 歯科の国際協力を語る会世話人会  
9.16 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）設立総会  
10～11 厚生省の依頼によりWHO短期専門家派遣（ソロモン諸島）  
（村居 正雄、上條 英之、林 芳裕）
- 1991 青年海外協力隊事務局長訪問、歯科隊員の要請
- 1992 第1回カンボジア活動（郵政省ボランティア貯金の助成による）。以後1997年まで活動  
第1回ソロモン諸島活動。以後1997年まで7回の活動
- 1993 ソロモン諸島よりの歯科医師研修生受入れ（6ヶ月間）。  
Dr. Pita Faru（東京歯科大学、沖縄県、海野町歯科診療所）  
青年海外協力隊員としてソロモン諸島に柿崎志乃歯科衛生士赴任  
（1995年まで）
- 1994 カンボジア駐在員として Dr. Kyu Kyu Swe Win 派遣
- 1995 青年海外協力隊員としてソロモン諸島に伊藤 伊 歯科医師  
赴任（1997年まで）  
カンボジア駐在員として Dr. So Po Khim 採用
- 1996 JICA短期専門家として、ブラジル・ペルナンブコ州公衆  
衛生プロジェクトに、村居を派遣  
ソロモン・スタディ・ツアー実施
- 1997 カンボジア駐在員として東郷晶子歯科衛生士派遣。7月内戦のため一  
時帰国させる。9月カンボジア活動撤収を決定  
ソロモン諸島にて伊藤隊員事故死。ソロモン活動を休止
- 1998 第1回ミャンマー活動。ミャンマー活動は、アジア歯科保健推進基  
金に引き継がれ、以後18回に亘る活動継続中
2000. 6.11 JAICOH総会で深井会長就任

参考文献： 国際協力あれこれ 歯界展望 Vol.101 No.1 ～ 6, 2003  
Vol.102 No.1 ～ 6, 2003

## 学生部会シンポジウム

会 期：2009年7月18日（土）午後15時00分～  
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
（小田急線参宮橋駅下車 <http://nyc.niye.go.jp/>）  
主 催：JAICOH 学生部会  
後 援：歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）  
連絡先：阿部 QWR04446@nifty.ne.jp

これまでの歯学部学生による国際保健医療活動の歴史を振り返り、これからの国際協力のあり方を考える企画内容となっております。歯学部・歯科大学の国際保健系学生サークルが勢ぞろいしますので、各大学サークルでの企画内容を紹介しながら進めていきたいと思っております。

学生時代に海外スタディツアーに参加したことのある若手歯科医師や、海外ボランティア活動に興味のある歯学部学生もしくは若手歯科医師は、是非ご参加ください。

平成 21 年度 JAICOH 学生部会総会

### 「世界へ羽ばたけ!! 歯学部学生による海外医療協力シンポジウム」

#### 第 1 部 基調講演

「歯学部学生による国際保健医療活動の変遷～過去 10 年を振り返って～」

門井謙典（宝塚市立病院 歯科口腔外科）

#### 第 2 部 シンポジウム

「これからの海外協力のあり方を考える～歯学生も YES, WE CAN!!～」

パネリスト： 古濱 貴美（神奈川歯科大学 国際医療研究会）

片山 沙織（日本大学松戸歯学部 国際保健部）

中山由香乃（北海道大学歯学部 冒険歯科部）

佐藤 涼一（東京歯科大学 国際医療研究会）

座 長： 阿部智（神奈川歯科大学）

## 歯学部学生による国際保健医療活動の変遷～過去 10 年を振り返って～

門井謙典（宝塚市立病院 歯科口腔外科）

日本は、かつて被援助国であった時期をもっており、現在は重要な援助国の側に立っているという世界でも極めて稀な国である。日本が明治の開国以来、多くの留学生をドイツや英国などのヨーロッパに派遣しながら急速に列強に伍するに至ってきた歴史と、また、太平洋戦争の疲弊から米国を中心とした戦勝国の物質援助を受けながらも急速に立ち直った実績は、開発途上国の関心と希望をそそっている。

我が国の国際協力は、1954 年のコロンボ・プラン加盟という形で、ODA（政府開発援助）としてスタートした。1960 年代には多くの開発途上国が政治的独立を果たし「南北問題」の解決を目指した開発が主であったが、70 年代から 80 年代にかけては「Basic Human Needs」が強調され、保健、給水、食糧、教育、住居、環境衛生、労働雇用など国民の健康と生活に直結するもの、すなわち保健医療分野の役割が重視されるようになった。

現在、地球規模で様々な分野においてグローバル化が進められている。当然、このグローバル化の流れは歯科医療分野においても例外なく進められており、世界的に、各国の歯科医学水準を同一レベルにしようとする試みで、どの国でも、患者は普遍性をもつ歯科医療の提供を受けられることが理想である。このためには、プライマリ・ヘルスケアに基づく必要最低限の歯科保健医療が確保されることと、住民が自ら行動することを趣旨としたヘルスプロモーションの考え方が重要視される。

日本の歯科保健医療の分野でも、ヘルスプロモーション活動、歯科保健政策への助言、歯科治療は勿論のこと唇顎口蓋裂手術といった高度な外科手術までが医療技術移転などを目的として、東南アジア諸国や太平洋諸国の開発途上国で活動している NGO、NPO 組織が増加している。国家レベルでは独立行政法人国際協力機構（JICA）がスリランカでペラデニア大学歯学部における歯科教育に関するプロジェクト技術協力が実施され、青年海外協力隊でも歯科医師や歯科衛生士などの歯科医療従事者の派遣実績もある。また、海外に在住する在留邦人では歯科医療問題が最も深刻な健康問題の一つであり、彼らのために様々な対策がとられている。さらに、日本国内においても在日外国人の健康対策では、言葉の問題だけでなく、不法滞在などで健康保険に加入できない外国人への医療をどのように考えていくかという基本的人権の問題までに発展する。また、企業のコスト削減に伴う工場などの生産部門の海外進出は、歯科技工所にも及び、歯科技工物の海外委託の是非が問われている。また、FTA（自由貿易協定）による労働市場の開放は、歯科保健医療の分野にも深く関わり、すでに医師・歯科医師の免許交換が話題にあげられている。

国際交流では、歯科大学・歯学部における研究および教育の一環として、海外の姉妹校との交流が1970年代から実施されるようになった。また、国際協力の現場を体験するため、歯学部学生が各NGOのスタディツアーなどに参加したり、学生自身が自主企画運営して開発途上国の現状を体験したりしている。学生時代に国際的な保健医療の援助・協力関係を考えるときには、活動量や知識の多寡にこだわるよりも、実際に途上国の現場を訪れ、保健医療の現状を実体験し、将来の国際協力のあり方を考えることが課題である。

筆者は、学生時代に途上国での歯科保健事情の実態を体験する目的で海外スタディツアーを企画運営し、アジア各国との歯学部学生との国際交流を行ってきた。また、歯学部学生のみならず、医学部学生、看護学部学生による国際保健医療活動に触れ、学生による国際貢献のあり方について意見交換をしてきた。今回は、社会背景・時代背景を踏まえながら、これまでの歯学部学生による国際保健医療活動の歴史を振り返り、今後のあり方について考えてみようと思う。

## 2008バングラディッシュスタディツアーの報告

○中山由香<sup>1)</sup>、志摩朋香<sup>1)</sup>、篠原響子<sup>1)</sup>、中元絢子<sup>1)</sup>、中澤誠多朗<sup>2)</sup>、滝波修一<sup>2)</sup>

1)北海道大学 Interactive Dental Students' Alliance for Health Care(IDAH、冒険歯科部)、2)北海道大学大学院歯学研究科

北海道大学歯学部 IDAH(冒険歯科部)は、2008年夏に2年生から6年生までの学生が参加し、バングラディッシュスタディツアーを行った。

バングラディッシュスタディツアーは2008年8月12日から22日までの11日間の日程で行われ、北海道大学歯学部の6年生2名、4年生1名、3年生2名、2年生5名の総勢10名が参加した。首都ダッカにあるダッカ大学歯学部、サッポロ歯科大学、バングラディッシュ歯科大学、パイオニア歯科大学の4校との学生間交流会および病院見学、クルナ市内の小学校における歯科検診および口腔衛生指導、サイクロン被災地での植樹作業、ダッカ郊外の村での訪問診療の見学を行った。

サッポロ歯科大学、バングラディッシュ歯科大学、パイオニア歯科大学では、学生同士による大学の教育、実習内容をはじめとする学生生活を紹介したり、交流を深めるために歌や劇などの披露による交流を行った。また、ダッカ大学歯学部では引率者である滝波先生、森田先生の講演会も行われた。各大学に特色があり、学生も千差万別であったが、日本の学生と比べ歯科医療発展への意識が強く、将来への意欲が感じられた。しかし、設備や衛生面において感染症対策等に不安を覚えさせる部分もあり、先端技術の向上だけでなく、衛生観念の普及と改善が課題となっていることがわかった。

クルナ市内にあるウダヤン小学校における歯科検診では、1年生から3年生までの低学年280人を対象に歯科検診(TBI)と口腔保健指導を行い、4、5年生は指導のみを行った。低学年に限定したのは、時間的制約と来年以降の継続においての追跡が困難であったためである。TBIにおいて、C2やC3といった重度の齲蝕や歯肉炎も多くみられ、歯磨きの習慣化や齲蝕に関する知識を伝えることが必須だと感じた。

2007年に起こったサイクロンの被災地であるシャランコラで、ヤシの苗木の植樹を行った。現地の先生、村の方々の協力のもと高さ3~4mほどのヤシの苗木を小学校の周りに植樹した。未だにサイクロン被害の爪痕は深く残っており、仮設住宅やテントに住んでいる人もいた。災害における支援の必要性、方法について考えることが必要である。

アーメッド先生がパーチャング村にて2週に一回行うFree Friday Clinicを見学させて頂いた。これはダッカ郊外にあるごく一般的村であるパーチャング村の集会場にて、無料で歯科の診察を行うことである。太陽の自然光をライトに、簡素な椅子や机を使い、子供から老人まで診察していた。私たちも見学と共に補助や抜歯といった手伝いを行った。診察にきた村人約100名のうち、口腔ガンと疑わしき患者がいた。日本における口腔ガンの割合とは比較にならないほど、バングラディッシュにおける口腔ガンの発生率が高いという

ことがよくわかった。これは主にバングラディッシュでは伝統的に成人男性が愛用する葉タバコに原因があると考えられる。

今後口腔保健活動を行う場合の課題としては、財源・人材の確保、活動方法の検討、他組織との協同、情報収集などが挙げられる。これらを改善し、引き続き、学生交流を通して相互理解を深めるとともに、小学校での歯科検診および口腔衛生指導を行ってきたい。

## 日本大学松戸歯学部 国際保健部の活動について

日本大学松戸歯学部 国際保健部 片山沙織

【目的】我々国際保健部はスタディーツアーや海外の歯科学生との交流、ボランティア活動、勉強会、講演会等を企画、実施し、歯科学生として今、何ができるかを模索し実行することを目的としています。また、この分野における将来の国際協力のありかたについて探り、今後歯科医師となったときにどのように開発途上国と向き合っていかなければならないかについて学ぶことを目的とします。

【活動】南太平洋医療隊のトンガプロジェクト参加、歯科医学教育国際支援機構（OISDE）主催スタディーツアー参加、ABDSA（アジア太平洋歯科学生会議）、グローバルフェスタへの参加、国際保健に関わっている先生方との勉強会および講演会、国際医療のシンポジウムへの参加 等

上記のような開発途上国での活動、国際医療の公演、勉強会を通し、学生の視点であらゆる面に疑問をもち、行動し、見て、聞いて限られた力の中で自分たちには何ができるのかを考える。

【まとめ】私自身、国際保健部の活動を通し、APDSA、グローバルフェスタ、勉強会やシンポジウムに参加させていただきました。実際に活動した結果、歯科医療技術や知識の乏しい学生は、実情を体験し、知りえた情報をどのように対処したらいいのかという自己解決能力の重要性、さらに自分が今いる環境とはまったく違う生活を体験することで、自分がおかれている状況が本当に恵まれていることを活動を通じて学ぶことができました。また、国際協力に従事する団体の皆様のお話をじかに聞くことにより、普段の生活からは学べない貴重なお話を聞くことができる環境にいられることを幸せに感じます。

我々の今後の課題としては、学生独自の活動を強化していく必要があると感じます。学生同士で自分たちが経験してきたものを報告しあい、今後自分たちはなにができるのかを話し合ったり、実際に活動に参加できなかった人も、参加した人の話を聞くことで、モチベーションを高めあったりすることができると思います。

また、国際社会において言語（特に英語）が出来ないことは致命的であり、今後改善すべき点であると思います。

国際保健部は個人では今まで参加できなかった、したくてもどうして良いか分からなかった学生に対し、国際医療に携わる事のできる場を提供する役割を果たしてきました。また、国際医療に関してモチベーションを向上に寄与してきました。今後も一人でも多くの学生に国際医療に関心を持つよう、また今の生活に感謝の気持ちをもてるよう活動を続けていきたいと思っています。

連絡先：〒116-0013

東京都荒川区西日暮里5-37-16-602

Tel.09011177254

## 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会活動報告

古濱貴美<sup>1)</sup>、若菜 裕<sup>1)</sup>、山野悟志<sup>1)</sup>、齋藤孝平<sup>1)</sup>

1)神奈川歯科大学歯学部 国際医療ボランティア研究会

本団体は2005年に設立され、今年で5年目を迎える。設立当初はサークルという位置づけであったが、2008年4月より公認団体として部に昇格し、活動を広めている。

本団体の活動は国内活動と海外活動に大別され、国内活動としては、特別養護老人施設にて入居者様の介助、学内の校内清掃、学園祭への展示・出展、無料歯科検診の補助等を行っている。

上述した活動の内容や参加者に関しては月に1~2回開かれる定例会にて話し合わせ、上下関係に関わらず互いに意見を出し合い部の方針を決定している。

一方、本団体主催の海外活動として、設立から現在に至るまで年に一度スタディーツアーと称し継続してタイ王国へ訪問している。主な活動内容としては現地歯学部との交流、病院見学、現地医療情勢の視察、過疎地での公衆衛生指導等を行っている。また、2007年度、2008年度は東京歯科大学国際医療研究会主催の日中歯科事業活動へも参加し、アジア諸国における医療の現状について学んだ。

大学間交流では海外の歯学部教育、診療方針の差異を学ぶことができ、また継続して同じ国へ訪問することにより信頼関係の構築へと繋がっている。

また、我々はタイの過疎地・農村地を訪問し現地の医療情勢の視察および公衆衛生活動を行っている。第一次はチェンライ、第二次はチェンマイへと訪問し、第三次はタークにてモバイルクリニックへの参加、第四次ではナン県にてマヒドン大学学生と共に活動した。

特にタイ王国では保険制度が存在しないため国民は全て政府の援助の元で医療を受けることが出来るが、一方で予防という概念の欠如に繋がると懸念されており、公衆衛生活動推進の必要性が考えられた。

言語の違いを初めとし異なる地域で活動するという事は様々な弊害がある中で、現地学生と共に活動を行うことによってより効率的に多くのことを学び得ることができ、今後現地学生の協力と共に公衆衛生の向上に努めたいと思われる。

将来医療に携わる学生として、グローバルな視野を持ち学生の時点から実際に現地の現状を把握するという事は大変有意義な経験である。

今後の課題としては、学生という立場でどこまで地域社会および国外のニーズに応える活動ができるかが重要であると考えられ、現在検討中である。



海外活動概要

【第一次スタディーツアー】

日時	2005年12月23日(金)～ 12月29日	活動場所	タイ王国 (バンコク、チェンライ)
参加者	学生:熊木淳雄、蒲池弘樹、山口 教員:阿部 智	活動内容	チュラロコーン大学視察、 チェンライでの公衆衛生活動

【第二次スタディーツアー】

日時	2007年2月17日(金)～2月25日	活動場所	タイ王国 (バンコク、チェンマイ)
参加者	学生:川瀬聖文、齋藤孝平、高西 桂、 千原 晃 引率教員:阿部 智	活動内容	チュラロコーン大学視察、 チェンマイでの公衆衛生活動

【第三次スタディーツアー】

日時	2007年12月21日(金)～12月30日(日)	活動場所	タイ王国 (バンコク、ターク)
参加者	学生:川瀬聖文、川津布美、齋藤孝平、 千原 晃 引率教員:阿部 智	活動内容	マヒドン大学視察、 タークでの公衆衛生活動

【第四次スタディーツアー】

日時	2009年2月25日(水)～3月7日(土)	活動場所	タイ王国 (バンコク、ナン)
参加者	学生:齋藤孝平、古濱貴美、山野悟志、山 下ひとみ	活動内容	マヒドン大学視察、 ナンでの公衆衛生活動





## 東京歯科大学 国際医療研究会 の活動の変遷

佐藤涼一<sup>1)</sup>、田中らいら<sup>1)</sup>、黄地健仁<sup>1)</sup>、福嶋玲雄<sup>1)</sup>、眞木吉信<sup>1) 2)</sup>

1) 東京歯科大学国際医療研究会、2) 東京歯科大学衛生学講座

### 【国際医療研究会とは】

歯科医学を学習する中で、国内外において歯科医療に係わる実社会に貢献する活動を行うことを目的として設立された東京歯科大学公認団体です。国際医療に関心を持ち、歯科分野から貢献できる「国際歯科医療人」を目指し、国際医療の知識を深めることのできる研究会です。

- ・現部員数：59人（各学年10人程度）
- ・構成：歯学部学生、歯科衛生士校学生
- ・主な活動内容：国際保健活動、国際交流活動、国内ボランティア活動（高齢者施設などで）

### 【国内ボランティア活動】

#### 口腔ケアボランティアの実施

千葉市の介護老人保健施設うららにて食事介護や口腔ケアなど口腔機能の向上を援助するための活動を行っています。

#### 在日外国人の無料相談会への参加

NGO 団体 SHARE（国際保健協力市民の会）が実施している在日外国人の無料相談会に個人的に部員が参加している。私たちは受付、各ブースへの案内や問診、歯科ブースでの診察の補助や歯式チャート記入などを行っている。

### 【国際交流活動】

#### アジア太平洋歯科学学生会議（APDSA）への参加

東アジア・東南アジア・オセアニア地域の歯科学学生の交流を目的とした国際交流団体であるアジア太平洋歯科学学生会議（APDSA）に毎年参加しています。過去に3名の日本委員会委員長を輩出し、主体的に運営にも参画しています。

#### 日中歯科学学生協会の事業への参加

歯科学学生における日中学生交流の友好や相互理解を深め、日中の歯科保健医療を通じた社会貢献や将来を通じた両国間の連携強化や交流を推進していくことを目的として「日中歯科学学生交流事業」が実施された。2007年、2008年は東京歯科大学国際医療研究会の事業として実施したが、2009年より日中歯科学学生協会を設立して事業を引き継いだ。

## 【国際保健活動】

国際保健・国際協力を「学生」、「歯科」という観点から考え、大学の学生組織として現段階でできる活動の実践が東京歯科大学国際医療研究会の国際保健活動である。

### 過去の活動実績

#### 第1次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：1999年4-5月 参加者：歯科医師2名、学生7名、歯科衛生士2名

実施国：ミャンマー 受入機関：Institute Dental Medicine

#### 第2次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：2000年12月 参加者：歯科医師2名、学生6名

実施国：ミャンマー 受入機関：IDM (Institute Dental Medicine)

活 動：歯科保健活動、視察、表敬訪問 (IDM、保健省)

#### 第3次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：2003年3月 参加者：学生4名

実施国：スリ・ランカ 受入機関：JICA スリ・ランカ事務所

活 動：視察 (ペラデニア大学歯学部、ペラデニア大学歯学部附属病院、JICA 事務所)

#### 第4次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：2004年3月 参加者：歯科医師1名、学生4名

実施国：ラオス 受入機関：国立マホソット病院

活 動：歯科保健活動、視察 (JICA Kids Smile Project)

表敬訪問 (保健省、JICA 事務所、国立ラオス大学、国立マホソット病院)

#### 第5次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：2005年3月 参加者：歯科医師1名、学生6名

実施国：ラオス 受入機関：国立マホソット病院

活 動：歯科保健活動、視察 (国立ラオス大学歯学部、国立マホソット病院)

表敬訪問 (日本大使館、JICA 事務所)

#### 第6次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：2006年3月-4月 参加者：歯科医師1名、学生5名

実施国：ラオス・タイ王国

受入機関：国立マホソット病院 (ラオス)、チェンマイ大学歯学部 (タイ)

活 動：ラオス：視察 (JICA Kids Smile Project、国立ラオス大学歯学部)

表敬訪問 (保健省、日本大使館、JICA 事務所)

タイ王国：視察 (チェンマイ大学歯学部・歯学部附属病院、)

#### 第7次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー

日 時：2007年3月2日 参加者：歯科医師2名、学生3名

実施国：ネパール 受入機関：Kantipur Dental Hospital

第8次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー（日中歯科学学生交流事業）

日時：2007年8月 参加者：歯科医師2名、学生5名

実施国：中国 受入機関：北京大学、上海交通大学、四川大学、第四軍医大学

備考：外務省2007日中文化・スポーツ交流年認定事業

第9次東京歯科大学国際医療研究会海外スタディーツアー（日中歯科学学生交流事業）

日時：2008年8月 参加者：歯科医師1名、学生8名

実施国：中国 受入機関：首都医科大学口腔医学院、四川大学華西口腔医学院

備考：外務省2008日中青少年交流年認定事業

	実施国	受入機関		実施国	受入機関
第1回	ミャンマー	Institute Dental Medicine	第5回	ラオス	国立マホソット病院
第2回	ミャンマー	Institute Dental Medicine	第6回	ラオス・タイ王国	チェンマイ大学歯学部
第3回	スリ・ランカ	JICA スリ・ランカ事務所	第7回	ネパール	Kantipur Dental Hospital
第4回	ラオス	国立マホソット病院	第8回	中華人民共和国	北京大学口腔医学院



# 20th Conference on International Cooperation of Oral Health

Sunday, July 19, 2009

Tokyo Medical and Dental University  
Bukyo-ku, Tokyo, Japan

STUDENTS' SESSION

**Saturday, July 18, 2009**  
**National Olympic Center,**  
**Yoyogi, Tokyo, Japan**

15:00- Lecture  
"International Health Activity  
by Dental Students in the last  
decade."  
Dr. Kanenori Kadoi  
(Takarazuka City Hospital)

15:30- Symposium  
"International Cooperation in  
the future"  
Moderator:  
Dr. Satoshi Abe  
(Kanagawa Dental College)  
Symposist:  
Ryoichi Sato  
(Tokyo Dental College)  
Yukano Nakayama  
(Hokkaido University)  
Kimi Furuhashi  
(Kanagawa Dental College)  
Gen Yano  
(Nihon University at Matsudo)

18:00- Reception

## PROGRAM

10:30- Poster Presentation  
15:00- Special Lecture  
"The roll of dental and oral health in international  
health cooperation"  
Dr. Kakuhiro Fukai (Chair of JAICOH)  
"Recent International health and expectation for oral  
health"  
Dr. Akira Ishii (Emeritus Professor of Jichi  
Medical  
University, Former Chair of Japan Association for  
International health)  
17:30- 20<sup>th</sup> Anniversary Reception  
(Okura café & restaurant Medico)

## ORGANIZING COMMITTEE

Kakuhiro Fukai  
Motoyuki Suzuki  
Masakazu Ohara (Chair)  
Koichi Nakakuki  
Satoshi Abe

## CONTACT INFORMATION

<http://www.fih.s.org/>  
Dr. Ohara (Chair of Organizing Committee)  
E-mail: [oharin@aol.com](mailto:oharin@aol.com)  
Dr. Abe (Chair of Student Session)  
E-mail: [abe@kdcnet.ac.jp](mailto:abe@kdcnet.ac.jp)

Organized by: Japan International Cooperation of Oral Health (JAICOH)  
Supported by: Japan Dental Association

## JAICOH資料集

1. 歯科保健医療国際協力協議会とは
2. 歯科保健医療国際協力協議会会則
3. 入会申込書
4. ニュースレター

**歯科保健医療国際協力協議会 (JIACOH)**  
Japan Association of International Cooperation for Oral Health)

---

「歯科の国際保健医療協力を語る会」が前身であり、1990年9月に設立された。歯科保健医療を中心とした国際協力の立案、実施を行うとともにその背景にある栄養・食生活の改善について調査協力を行うことを目的に、カンボジア、ソロモン諸島、ミャンマーなどでの協力活動を行ってきた。

2000年度以降は、(1)口腔保健に関する国際協力分野で活動する団体や個人の情報交換・連携のための協議会開催とニュースレターの発行、(2)人材育成のための小規模国際協力活動の助成(シーズ・プロジェクト)を主な事業内容としている。具体的な情報交換の場としては年1~2回の国際保健に関するフォーラム、ワークショップの開催がある。また、国際歯科保健医療NGOダイレクトリを2002年から発行している。

本会の運営は、理事会が中心となっており行われている。理事は、ネパール歯科医療協会、日本モンゴル文化経済交流協会、南太平洋医療隊、日本口唇口蓋裂協会、北海道ブータン協会、DHネットワークなど海外活動団体の役員と、カンボジア、中国、ミャンマーなどで個人として保健医療協力活動を行っている者で構成されている。また、本会会員が、フィリピン、スリランカ、ベトナム、バヌアツ共和国などで独自に歯科保健医療協力活動を展開している事例がある。また、年間事業計画・予算などの決定は、年1回7月頃開催される総会の議決を経て行われている。

国際保健医療プロジェクトへの応募としては、本会に関連する団体や個人の海外活動を、本会ニュースレターのなかで随時紹介している。本会の活動としての小規模国際協力活動の助成(シーズ・プロジェクト)は、会員を対象とし、募集はニュースレターを通して行い、採用の可否は理事会で決定される。

代表者：深井稜博(会長)

事務局：〒341-003 埼玉県三郷市彦成3-86

TEL：048-957-2268、FAX：048-957-3315、E-mail: fukaik@ka2.so-net.ne.jp

歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）役員  
2008年度-2009年度

（2008年度総会～2010年度総会前）

- 会長 深井穫博（ネパール歯科医療協力会、埼玉県三郷市開業）
- 副会長 黒田耕平（日本モンゴル文化経済交流協会、神戸生協なでしこ歯科）  
夏目長門（日本口唇口蓋裂協会、愛知学院大学歯学部口腔外科第二講座）  
鈴木基之（昭和大学歯学部歯周学講座）
- 理事 時田信久（南太平洋医療隊、埼玉県坂戸市開業）  
原田祥二（北海道プータン協会、北海道小樽市開業）  
河野伸二郎（神奈川海外ボランティア歯科医療団 KADVO、神奈川県横浜市開業）  
澤田宗久（南太平洋に歯科医療を育てる会、大阪府大阪市開業）  
宮田 隆（歯科医学教育国際支援機構）  
森下真行（日本歯科ボランティア機構 JAVDO）  
河村康二（南太平洋医療隊、埼玉県川口市開業）  
柴田享子（DHネットワーク）  
田中健一（中国北京天衛診療所）  
阿倍 智（神奈川歯科大学）  
小原真和（有夢会、東京都品川区開業）  
有川量崇（日本大学松戸歯学部衛生学講座）  
菊池陽一（宮城県伊具郡開業）  
白田千代子（東京都中野区北部保健福祉相談所）  
梁瀬智子（ネパール歯科医療協力会）  
平田宗善（神奈川歯科大学、南東アジア支援団 KDC-SAS）  
村田千年（ルカジャパン聖路加国際病院）  
越渡詠美子（地球の保健室）  
中村修一（九州歯科大学国際交流・協力室）  
中久木康一（東京医科歯科大学 顎顔面外科学分野）  
須田佳菜絵（日本大学松戸歯学部国際保健部）
- 監事 金澤紀子（日本口腔保健協会）  
眞木吉信（東京歯科大学衛生学講座）
- 顧問 榊原 悠紀田郎（愛知学院大学歯学部名誉教授）、鶴巻克雄（東京都開業）  
石井拓男（東京歯科大学社会歯科学教室）、村居正雄（長野県開業）、小林清吾（日本大学松戸歯学部）
- サポーター・メンバー  
宮崎秀夫（新潟大学歯学部予防歯科学講座）、小宮愛恵（JICA）、宇野公男（多磨生全園）、沼口麗子（歯科医学教育国際支援機構、ネパール歯科医療協力会）  
榑崎正子（ネパール歯科医療協力会）、永井祥子（地球の保健室）



# 歯科保健医療国際協力協議会(JAICOH)

## 入会申込書

氏名(漢字)	
氏名(かな)	
所属	
住所(職場等)	〒
TEL	
FAX	
住所(自宅)	〒
TEL	
FAX	
e-mail	

JAICOH 入会金	1,000 円
普通会员	5,000 円
維持会員	10,000 円
寄付金	シーズプロジェクト ( ) 円
	その他活動 ( ) 円
合計	

私は(普通会员・維持会員)として申し込みます

年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_

返送先 〒341-0003 三郷市彦成 3-86 深井歯科医院 宛郵送

あるいは FAX(048-957-3315) で送信して下さい

郵便為替:口座番号 00140-4-36465 加入者名:歯科保健医療国際協力協議会

---

第20回 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）  
20周年記念学術大会プログラム・抄録集

**2009年7月18日発行**

発行人： 深井 穂博

発行： 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）

〒341-0003 埼玉県三郷市彦成3-8-6

TEL 048-957-2268 FAX 048-957-3315

---